

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号712

| | | | |
|------------------|-------|---------------|---------------------------------|
| 発生場所 | その他 | 精神・意識障害の有無 | リスク C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク |
| 発生場所 (その他) デイルーム | | 無 | |
| 関連したもの | 杖、手すり | 発生内容の分類 転倒 | |

発生内容

製氷機前での転倒

概要

左TKA術後9日目の70歳女性患者。朝方、デイルームにある製氷機から氷嚢に入れる氷を取ろうとした際、足元がふらつき臀部から転倒。腰痛強く、レントゲン、MRI施行、第一腰椎圧迫骨折と診断される。

要因

- ・製氷機は高さが低く、氷を取る時に前傾姿勢やしゃがむ姿勢となる
- ・一本杖歩行は手すりもつかまらなると不安定な状態だったが、リハビリスタッフはデイルームまで自立可、看護師は見守り必要と、杖歩行に対する評価が異なる
- ・患者は、杖を離してシンクの縁を把持し横歩きしていた

対策

- ・体幹や下肢の筋力を鍛えるリハビリを行う（リハビリ科内で検討）
- ・患者のADL拡大時には、看護師とリハビリ職員が十分話し合いを行う
- ・起床後は筋力低下しており、日中と夜間の動きをふまえて評価を行う
- ・週末に転倒していることから評価時期も考慮する
- ・滑りやすいシンクでは無く、把持するものに適したものを検討する

参照



製氷機上の電子レンジを移動。シンク横に手すりを設置、つかまりながら製氷機を開けて氷を取り、トレイに置いた氷嚢へ氷を入れることにした。